

普及だより

平成22年8月10日 No.29
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5-17-26
電話 029-822-8517
FAX 029-822-7370
URL: <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

ナシ農家の女性が元気です!



「今年は剪定を夢中になってやっています!」今年の三月の農村女性大学修了式での言葉です。

農村女性大学OG十二名は、平成二十年から二年間、ナシ生産や経営の基礎となる知識や技術の習得に努めてきました。講座修了後も、「講座で学んだことを一本の樹の管理を通して実践しよう」と、今年も継続して試験樹一本の管理と学習会を開催しています。

五月には、樹相診断をして収量目標を決めました。みんなで立てた目標と実際の収量との差を、来年以降の樹相診断や管理に活かしていきたいと考えています。七月には優良事例園を視察研修するなど、新しい技術の取得や見聞を広げることに大変意欲的です。

また、みんなでメールアドレスを交換し合い、試験樹の管理状況を発信したり、病虫害や災害の情報、毎日の管理の中で生じた疑問等を、気軽に情報交換しています。

ナシ生産は厳しい状況が続いています。これまで培ってきた梨農家の技術に加え、元気で勉強熱心な女性達の活躍が、梨産地を活性化してくれるのではないかと、今後の活躍がますます期待されます。



高品質コシヒカリ
生産のための
管理のポイント

【適期収穫】

早刈りでは、青米や死米が多く、収量も減少します。刈り遅れは、収穫ロスが増えるばかりでなく、胴割米や着色米等により、品質が低下します。収量と品質を確保するため、適期に収穫しましょう。

コシヒカリの収穫適期の目安は、穂首近くの緑色を帯びた籾（帯緑籾）が一〇％程度のときから五日間、出穂四〇〜四五日後です。籾の状態を判定基準の写真と比較する『水稲「コシヒカリ」適期収穫チャート』を利用することにより、適期を簡易かつ正確に判定・予測できます。利用希望の方は、普及



▲帯緑籾別基準（黒色カルトン上）

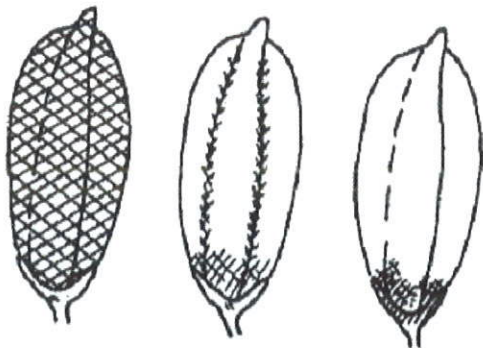
センターへお知らせください。

【適正な乾燥・調製】

急激な乾燥によって助長される胴割米の発生を軽減するため、籾水分が高い場合や、ばらつきが大きい場合は、「二段乾燥法」に取り組みましょう。一段目では、籾水分一八％程度で乾燥機を止め、一時（一日以上）貯留します。これにより、整粒と未熟粒の水分差が少なくなり、その後、二段目の再乾燥により、籾水分を一五％に仕上げます。

籾すりは、放冷し、穀温を外気温程度まで下げてから行います。放冷が不足していると、肌ずれ米、胴割米、碎米が多くなります。

調製は、一・八五mm以上の篩目を用い、小さな粒を十分に選別できるように適切な流量で行います。



▲帯緑籾の模式図【斜線部は緑色を帯びている部位（帯緑部）】

【健全な土づくり】

翌年の栽培に備え、収穫後は土づくりに努めましょう。

稲わらは、収穫直後の気温が高い時期にすき込みます。このとき、浅めに耕起することにより、分解の促進を図ります。

たい肥を利用する場合は、事前に普及センターで土壌の可給態窒素量を測定した後、『たい肥ナビ！水稲版』を用い、適正なたい肥の施用量及び基肥窒素の施用量を確認しましょう。たい肥は完熟したものを用い、施用は、十一月中旬頃までに行いましょう。

ナシの黒星病の秋期防除

近年、黒星病の発生が多くなっています。翌年の発生を抑えるために秋季防除を徹底しましょう。

【黒星病対策】

黒星病の伝染源には、落葉とりん片病斑（後に芽基部病斑となる）とがあり、それぞれに対しての対策が重要です。

①落葉からの感染

黒星病は、秋季に葉の裏に薄い黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。秋型病斑を生じた落葉上では、三月中旬頃から子のう胞子が形成され、五月下旬頃まで降雨により飛散して伝染源となります。

まちからむらから

土浦市

日本蕎麦協会長賞を受賞

土浦「常陸秋そば」そばオーナー事業を行っている市の農産物オーナー推進協議会（事務局農業公社）委員の小松崎忠夫氏が、三月十一日に二〇〇九年度全国そば優良生産表彰で日本蕎麦協会長賞を受賞しました。自宅付近の畑に圃場を集約し機械化作業体系で二・三haを全作業を一人で実施しており、その作業の省力化が高く評価されたの受賞となりました。

小松崎氏は第二〇回茨城県そば共進会でも、優秀賞（茨城県議会長賞）を受賞しました。共に参加した柳田哲男氏も優良賞（茨城県農協中央会会長賞）を受賞しており、生産された「常陸秋そば」は「小町の館」で提供されています。

かすみがうら市

かすみがうら市4Hクラブの活躍

かすみがうら市4Hクラブでは、地域社会に貢献するため、様々な活動を行っています。毎年、新生の開拓道路沿いの花壇を管理し、環境の美化に一役買っていることは、その好例です。

昨年から新たに、地域課題の一

対策として、落葉を集めて園外に持ち出し処理するか、ロータリーをかけて、落葉を粉砕してうないこみます。

②りん片病斑からの感染

九月十一月の降雨により秋型病斑からりん片への感染が盛んになり、翌年の伝染源になります。

対策として、収穫直後と十月に薬剤散布を行います。徒長枝に薬剤が十分かかるようにします。多発した園や雨が長く続く時は、十一月月上旬まで防除を行ってください。

【薬剤散布の留意点】

農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、正しく使用してください。薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されます。

また、周辺への飛散に十分注意して行ってください。

キュウリうどんこ病
防除のポイント

昨年、キュウリにうどんこ病の発生が多く見られました。今年もうどんこ病には十分注意して下さい。

【ていねいな葉裏への薬剤散布】

うどんこ病の防除薬剤は、葉裏にもかかるようにていねいに散布することが大切です。葉裏にかかった成分が葉裏に

も達する、いわゆる浸達性のある殺菌剤が有効ですが、現在農薬登録されている浸達性がある薬剤の一部に対しては、耐性菌が非常に発生しやすいという問題があります。そのため、ローション散布に心掛けましょう。

【早期の下葉の除去】

葉裏、特に下葉の裏面にきれいに薬剤を散布することは困難です。特に昨年のような多発年には、葉表はきれいなのに薬剤が十分にかからなかった葉裏はうどんこ病で真っ白という場面をよく見かけました。

下葉の葉裏はうどんこ病菌の

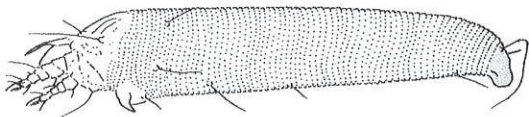
温床になりがちです。『いくら防除してもうどんこ病が減らない』、そのような事態を避けるため、必要のない下葉の除去を早めに行いましょう。



▲薬剤を噴霧した苗に耐性菌(左)または感受性菌(右)を接種した場合

☆ダニの話しあれこれ☆

作物を加害するダニの一つに、フシダニがあります。フシダニは、植物に「節」をつくることから名づけられました。しかし、「節」をつくるフシダニは一部であり、他にハモグリダニ、サビダニ等もフシダニの仲間です。体長は最大で約0・3mmと、大変小さなダニです。フシダニ類は、植物の根を除くあらゆる部位を生活空間として利用しており、その結果として、ロゼット、さび症状、銀白化、褐変、斑紋、退緑、えそ、黄化、萎縮、捲葉、ひぶくれ、虫こぶ、毛状化、苔状化、芽の肥大、てんぐ巣等、様々な被害症状を引き起こします。また、それらの中には、ウイルスやファイトプラズマ等の植物病原体による症状に類似するものもあり、区別しにくい場合もあります。フシダニ類の防除は殺ダニ剤が主体ですが、硫黄を含む殺菌剤の中にも有効な薬剤があります。そのため、硫黄を含む殺菌剤が他の殺菌剤に置き換わることに、今更抑えられていたフシダニが突然問題となることを考えられます。



▲フシダニの体 (Keifer, 1952より抜粋)

つである遊休農地を活用した作物の試作に取り組み始めました。今年、保育園児たちと一緒にサツマイモを栽培しています。サツマイモは順調に生育しており、今年の収穫が大きな楽しみとなっております。

石岡市
エコファーマーの取得で環境に配慮した農業推進

ひたち野農協石岡梨部会とハウス部会では、環境に配慮した農業を推進していくために、部会をあげてエコファーマーの取得に向け、講習会や説明会を行いました。

石岡梨部会では現在、十四名がエコファーマーに認定されていますが、今回三十七名が申請し、部会員全員の認定を目指します。また、ハウス部会でも、二十二名全員が申請することになりました。エコファーマーの取得により、生産者自身、環境に配慮した栽培を行う意識が向上するとともに、消費者に対し安全・安心な農産物をアピールしていく良い機会となり、今後の産地の発展が期待されます。

どんぶり勘定から
脱却しよう！

六月下旬、かすみがうら市で、「土浦地域経営改善フォーラム」を開催しました。



農山村地域経済研究所の楠本雅弘所長より「家族で取り組む健全経営―どんぶり勘定からの脱却とみんなが主役のパートナー農場」と題して講演いただきました。

「農業経営と生活が未分離で、減価償却費の積み立てをせず、家計費が農業所得を食いつぶしている農家が多い。農業収支は月次決算を行うべき。毎月家族経営会議を開催し、先月の実績報告と今月の計画を確認し、目標に向かって家族全員が経営にかかわる『パートナー農場』を実践していけば、後継者が残り経営は持続できる」と強調しました。

また、JA土浦パソコン研究会の小林芳行会長が「私の農業とパソコン」と題して、平成二年から

続くパソコン研究会の活動と、農業経営へのパソコン活用について事例発表しました。

みなさんも毎月の家族経営会議を実践し、減価償却費の積み立てにもチャレンジしてみませんか？

土浦地域就農
支援協議会の活動

本協議会は土浦地域管内の市、農協、農業委員会、就農アドバイザー、普及センターで構成され、農業の新たな担い手の就農支援、青年農業者の確保育成を円滑に行うための活動をしています。

主な活動内容は、月一回の就農相談会の開催、就農希望者の情報交換並びに、新規就農支援の優良事例研修などです。

就農相談会には、今年の四月から七月までに九名の方が相談に來られました。

相談内容では、①農業に関する研修先 ②農地の確保について ③農業法人等への就職についてなどが多くなっています。

新規参入を始め、新規に就農を希望される方々のあらゆる相談を就農支援協議会のメンバーがお受けしています。

また、地域で新たに就農された方がいましたら、普及センターまでお知らせ下さい。

農業経営士の紹介

今年度新たに土浦市の酒井さんが茨城県知事から認定を受けました。

また、農業経営士の栗原仁氏、青年農業士の川井孝文氏、外塚正義氏が退任されました。

農業経営士

土浦市 酒井 攻氏

花き（枝物）



JA土浦花き部会の青年部長を務めており、生産品目は、アカメヤナギを中心に雲竜ヤナギ、石化ヤナギ等のヤナギ類を専作で周年出荷しています。

いばらき営農塾の開催

茨城県立農業大学校では、県内で農業を始めてまもない方や新たに農業を始めようとする方で本格的な農業経営を目指す方を対象に、いばらき営農塾（営農支援研修）を開催しています。

今後の開校予定としては、坂東市の園芸部で、野菜園芸を中心に基礎知識と技術を学ぶBコース（概ね四十五歳までの方が対象）が十一月十九日から三月八日の火曜日と金曜日に開講されます。申し込み締め切りは十月十五日です。希望される方は、普及センターまでご連絡ください。

平成 23 年度茨城県立農業大学校学生募集

専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。

茨城県立農業大学校は、幅広い視野と豊かな人間性の形成を図るとともに、時代に即応できる経営感覚に優れた農業者及び農村社会の担い手、農村地域において指導的役割を果たし得るにふさわしい者の教育を目標としています。

科名	入学定員	主な対象	修業年限	専攻コース
学 科	農学科	40人	2年	普通作露地野菜果樹
	畜産学科	10人	2年	
	園芸学科	30人	2年	施設野菜花き
研 究 科	10人	農業大学校卒業以上若しくは平成23年3月に卒業見込みの者	2年	作物園芸畜産

◎詳しくは入試事務局にお問い合わせください。

■問い合わせ先

〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 4070-186

《入試事務局》TEL 029-292-0010

■農大ホームページ <http://www.ibanodai.ac.jp/>